

MDJ ファイナル・レポート K 2022

国際プラスチック・ゴム産業展

The World's No. 1 Trade Fair for Plastics and Rubber



2022年10月26日

出展・来場者の大きな期待に応える

世界のプラスチック・ゴム産業にとってのイノベーションの原動力
循環型経済への転換を促す具体的な解決策・機械・製品が一堂に

3,037社が出展参加したK 2022は、プラスチック・ゴム業界が3年ぶりに再び世界レベルで直接意見交換できるようになった喜びに、満ち溢れました。出展者からは、非常に良いコンタクトを獲得できた、来場者の投資意欲が旺盛だった、有望な新規顧客との関係を構築できた、多くの商談が成立し、なかにはその場の流れで契約に至ったものもあった、などの報告がありました。

『Kは、今回も大きな期待に応えてくれました。本展は、世界のプラスチック・ゴム産業において、最も国際的で充実した革新的なメッセであり続けています』と、メッセ・デュッセルドルフ代表取締役 E. ヴィーンカンプはその成果を喜び、『K 2022は、対面でのネットワーキング、偶然の出会い、ブランドや製品の体験がいかに貴重なものであるかを、印象的に示してくれました。そして、業界のイノベーションの原動力として、強いシグナルを発信することに成功し、出展者が大きな意思決定力を持つ国際色豊かな多くの顧客と商談できたことに、大変満足しています』と、語っています。

176,000人もの業界関係者が、最も重要なプラスチック・ゴム産業展を視察に、世界中からデュッセルドルフを訪れました。K 2022のドイツ国外からの来場割合は70%以上と、今回も高い水準を維持しています。

出展者諮問委員会会長 U. ライフェンホイザー氏も、K 2022を非常に高く評価し、『この3年間、世界的にも国レベルでも、展示会がほとんど開催



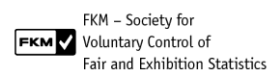
Messe Düsseldorf GmbH
P.O. Box 101006
40001 Düsseldorf
Messeplatz
40474 Düsseldorf
Germany

Phone +49 211 4560 01
Fax +49 211 4560 668
Internet www.messe-duesseldorf.de
E-mail info@messe-duesseldorf.de

Board of Managing Directors:
Wolfram N. Diener (CEO)
Bernhard J. Stempfle
Erhard Wienkamp
Chairman of Supervisory Board:
Dr. Stephan Keller

County Court Düsseldorf HRB 63
VAT ID number DE 119 360 948
Tax ID number 105/5830/0663

Messe Düsseldorf
memberships:



Public transport:
U78, U79: Messe Ost/Stockumer Kirchstr.
Bus 722: Messe-Center Verwaltung

されなかったため、K 2022 は、プラスチック・ゴム産業の世界 No.1 メッセとして大いに期待され、そして、業界のあらゆる部門に新たな刺激を与えることに成功したのです。会期中に行われた多くの、場合によっては予想外の具体的な契約交渉が、それを物語っています』と、述べています。

予測が難しく、不確実なことが多い今日、業界は全体的に厳しい状況にあります。出展者の取り組みや来場者の関心に悪影響を与えることはなく、むしろその逆であることが示されました。『特に、激動の時代にあって、プラスチック産業が循環型経済への変革を遂げようとしている今、K 2022 は、ともに積極的に将来の道筋を描く理想的な場となりました』と、U. ライフェンホイザー氏は総括しています。

なかでも、プラスチック原料・機械・加工メーカーが、循環型経済、省資源、気候保護を実現するための新技術を豊富に紹介し、来場者を沸かせました。これについて U. ライフェンホイザー氏は、『どの企業も、プロセスチェーンの最初から社会的責任を負い、持続可能な方法でプラスチックについて考える必要性を受け入れていることが、はっきりと感じられます。K 2022 で発表された、循環型経済への変革のためのソリューション、機械、製品の種類の多さには驚かされました』と、語っています。

K 2022 に、世界 157 の国と地域から、業界関係者が集結しました。ドイツに次いで多くの来場があったのは、オランダ、イタリア、トルコ、フランス、ベルギー、ポーランド、スペインなど、欧州の国々です。世界のプラスチック・ゴム、そして関連業界における K の認知度は今回も高く、ドイツ国外からの来場割合は 71% を記録しています。東アジア地域は、検査上の問題から、3年前の K に比べ来場数が減少した一方、米国、ブラジル、インドからは、多くの関係者をお迎えしました。

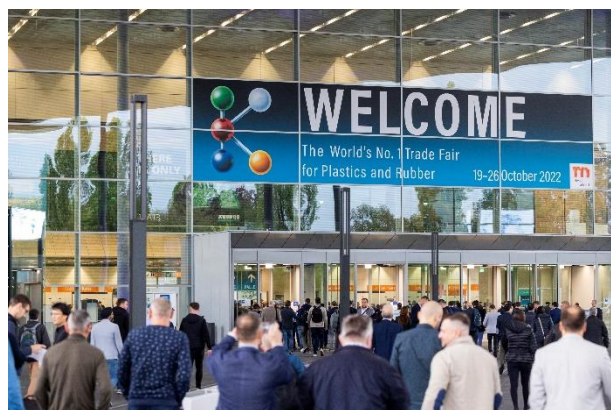


photo: Messe Düsseldorf/ctillmann

来場者の約 2/3 が、機械・プラント建設に関心を寄せ、前回 K 2019 よりも 5%増となる 57%は、原料や補助材料に興味があると回答、特にリサイクル品やバイオプラスチックに人気が集まりました。また、主な視察理由として、プラスチック・ゴム半製品・技術部品を挙げたのは、28%にのぼりました（ここまで複数回答可）。なお、来場者の 7 割以上が、経営陣・幹部・上層部、あるいは中間管理職の方々です。

出展製品の充実度とサプライチェーン全体像の把握という点で、K 2022 の来場者から高い評価をいただきました。そして、98%の方々は、設定した訪問目的を果たすことができたと言っています。

K 2022 は、サーキュラーエコノミー（循環型経済）、気候保護、デジタル化を、重要な

テーマとして取り上げました。投資意向において、加工・リサイクルのための機械設備が43%と突出するなど、この選択が的を射たものであったことが、会期8日間を通じて証明されました。なかでも注目されたのは、持続可能性、循環型経済や生産におけるエネルギー・資源の効率化です。事実、意思決定者の約40%が、脱炭素化について検討していると回答しています。

また、これら3大テーマを取り扱ったK specialsも、好評を博しました。そのひとつ『Plastics Shape the Future』では、経済的、社会的、環境的課題と解決策に焦点をあてたハイレベルな討論と講演が行われ、終始多くの来場者が訪れました。ドイツ機械工業連盟（VDMA）とその会員企業13社が、プラスチック産業における循環型経済の実現に向けた技術の重要性を印象的に示した『Circular Economy Forum』では、ライブデモンストレーションと、このテーマに関する根拠のある多くの知識と詳細な情報で、世界中の参加者からの関心を獲得しています。



photo: Messe Düsseldorf/ctillmann

K 2022 では、関係する機械や装置の処理パラメータを、より正確かつ的確な方法で調整することが可能な、国際規格 OPC UA についての議論も、盛んに行われました。これは、最適な循環型経営を行うための重要な条件と考えられており、8か国から40社が OPC UA の実証実験に参加しました。

Science Campus では、K 2022 の出展・来場双方に、プラスチック・ゴム分野における科学的な活動や知見を凝縮した概要を発信、数多くの大学、研究所、資金提供団体などが、直接対話の機会を提供しました。また、多くの生徒、研修生、学生が、プラスチック産業における職業とキャリア機会について知るため、プラスチック・トレーニング・イニシアチブ（KAI）を活用しています。

メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン（MDJ）の活動

ジャパン・パビリオンの設置・運営

K 2022 においても《ジャパン・パビリオン》を企画、2010年から継続してきた14号館の機械エリアは、残念ながら不成立となりましたが、7a号館の素材エリアには、(株)事業革新パートナーズ、住友金属鉱山(株)、大日本印刷(株)、天昇電気工業(株)の、4社が参加しました。なお、K 2022に出展いただいた日本企業は、これら4社を含め、75登録66社を数えます。ジャパン・パビリオン、そして日本企業への集客の助けとなるよう、会期前はもとより、会期中は7a号館のジャパン・パビリオンを中心に《[DIRECTORY OF JAPANESE EXHIBITORS](#)》を配布するなど周知に努めた結果、『コロナ禍でありながら、多くの関係

者にお越しいただいた』、『普段知り合うことができない専門家の方々と情報交換でき、大変有意義だった』などの評価の声を頂戴しました。

Japan Day

日本からご参加の皆さまに、視察の成果を最大限に得ていただくため、K ではおなじみとなっている『Japan Day』を、今年は10月24日（月）に開催、Covestro、BASF、VDMA、ENGEL、Reifenhauser の5社を巡り、最新技術・製品、さらには今後の見通しなどについて、ご説明いただきました。



K 2025

次回は、2025年10月8日（水）～15日（水）に、デュッセルドルフ見本市会場で開催されます。

『K』に関する情報・お問い合わせは、[株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン](#)、あるいは日本語ホームページ <https://k.messe-dus.co.jp/> をご覧下さい。

本リリース照会先

Messe Düsseldorf GmbH
K 2022 Press Office
Dr. Cornelia Jokisch / Ms.
JokischC@messe-duesseldorf.de
Tel.: +49-211-4560-998

Desislava Angelova / Ms.
AngelovaD@messe-duesseldorf.de
Tel.: +49-211-4560-242

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン
担当： 橋木 雅弘
mdj@messe-dus.co.jp
Tel.: 03-5210-9951

K @ [LinkedIn](#) | [YouTube](#) | [Facebook](#) | [Twitter](#)